市長雑感

(91)

開きたい豊かなくらしの展望を

四季の変化につれ表情をかえる自然の景観は、心に潜む美意識をいつもよび覚ましてくれる。梅一輪から春への移行、そして花菖蒲やまっかなつつじの初夏に立つこの時期は、とくに心のなごみが格別である。

さて、懸案事業だった市民図書館であるが、あらゆる図書館機能を備えて、近くオープンにこぎつける。くわしい紹介はさておくとして、この新図書館を、施設めぐりの参加者たちからひと足お先に見学してもらい、その後に膝を交えての懇談の機会をもった。ご婦人の参加が目立ったせいか、やはりくらしむきでの意見や要望が多かった中で、以外と文化施設といえるものへの関心の薄さが気になった。

新図書館は、これからの情報化時代の中で、住民の知る権利、読む自由に応え、視聴覚センターや大小の集会室を併設したものなのだが、それにも増して生活環境にかかわる問題意識が大きくあったことである。

一つには、生活圏からの距離的なこと、あるいは利用階層・ひん度などがつきまとう文化施設なればこそと思えるが、その意とするところは十分にくみとれる。だからこそということでもないが、施設建設等の青写真にあっては、利用する側に立っての計画設計はもちろんのこと、あらゆる面で市民本位の、それもみんなの利益になるような施政が絶対要件といつも私の胸の内にある。

ついこの間も、警察署で検討を進めている市内の総合交通規制について、不安を被る関係筋の人たちからのご意見を拝聴した。この交通規制は、歩行者の安全を第一に、主に車の流れが淀みがちな市内の渋滞緩和に向けての対策なのだが、大型車の2回通行や駐・停車禁止区域の設定等も考えられているだけに、これまでとは違った不便さがでてくることからの不安は確かなことだろう。しかし、これが絶対的な対策でないにしろ、渋滞から生まれる弊害を、当面いささかなりともくいとめる姿勢によって、大勢の市民が受ける快適な生活圏の展望が開かれていくものと思っている。

目下のところ、新潟バイパスや道路の新設といった計画なども順調に進展しているし、渋滞解消はさらに大きな前進も望めそうである。

いずれにしても、六万市民の首長として大局を誤らず見極めて、ことに当たりたい。

志田保

広橋さん 大塚さん 表彰受ける

広橋ノヤさん

三ページでご紹介した善道町一丁目の町内会と同じ「全国保健衛生大会」で、広橋ノヤさん（金沢町二）が日本公衆衛生協会長表彰を受けられました。広橋さんは長年にわたって婦人団体の役員をつとめられ、母子保健衛生の向上にもつくされたことで、その功績が認められたものです。

また、さきごろ大塚勇さん（山谷町一）も、身障者の自立更生者として厚生大臣表彰を受けられました。

大塚さんは、耳と目と口が不自由という三重のハンディキャップを背負いながら、自宅で竹細工製品を作っておられます。大塚さんの作る製品のできばえはすばらしく、各地のコンクールでは優秀な成績をあげ、県の優良商品にも認証されています。

また、このほかにも身障者関係の団体の役員にも一役かって、当市でも手話サークルを指導するなど、幅広く活躍しておられます。

大塚　勇さん

アメシロ　巣取りが一番効果的

緑の大敵〝アメリカシロヒトリ〟の一回目の発生期がこれから始まります。

卵からかえった幼虫は、十～十二日間は分散しないで、かたまって巣を作っています。ちょうどクモの巣のような糸をはりめぐらし、中がすけて見えます。この巣を見つけたら、枝を切り取るか、棒の先へ布に油をしませて、直接焼き殺してください。原始的な方法ですが、これが一番効果があります。しかし、一回だけ巣の処理をしたからといって安心はできません。二～三週間はよく注意して見回る必要があります。

また市では、今年も〝アメシロ〟防除対策本部を設置して、アメシロ撲滅のお手伝いをすることにしています。防除についてのお問い合わせは対策本部（環境整備課内）へどうぞ。電話は、四―二一一一の内線二七六番です。

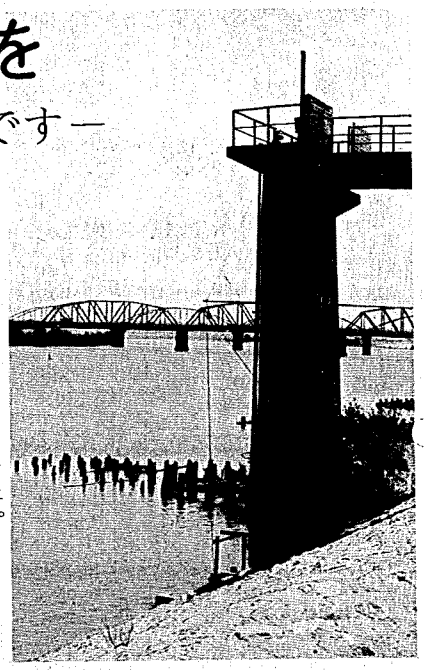
また、シロアリの被害も最近増えてきました。予防処理などについてくわしくお知りになりたい方は、市役所環境整備課へおたずねください。

お買物、ご用命は市内で

ガスと安全
●ガスせん確認……
おやすみ前やおでかけのとき、必ずガスせんが閉っているかどうかもう一度点検しましょう。ガスせんを指で示して確かめる方法は大変よい習慣です。
越後天燃ガス（株）　TEL(4)―2171

一人ひとりが節水を

―6月1日から水道週間です―



水量豊かに流れる阿賀野川。でもこの水にも限度があります。

水は限りある資源です

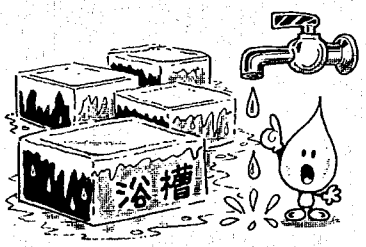
蛇口をひねれば、好きなだけ水が出る――そんな便利な生活の中で、私たちはとかく水道の水の貴重さを忘れがちです。

しかし、その水をつくり、家庭に運ぶまでには、ばく大な費用と労力がかかっています。浄水場づくり、消毒用の薬品、導水管や配水管の設置、施設の維持・管理……数えあげればキリがありません。

ところが電気やガスとちがって、水の使い方についてはあまり気にしない人が多いようです。家庭で、学校で、会社で、一人ひとりの工夫と努力で節約する余地は相当あります。

たとえば、蛇口からポタポタ落ちるていどの漏水でも、一時間で一リットル、一か月間で普通の浴槽で約四杯分にもなります。これが糸状の漏水になると、一か月間でなんと、浴槽二十九杯分にもなってしまいます。日常のちょっとした不注意が、たいへんなムダを生むものですね。

六月一日から「水道週間」が始まります。これを機会に水道をよりよく知ってもらうために、水道に関する問答をとりあげてみました。



すいどうもんどう

問　水道の水は安全ですか？

答　原水（自然のままの水）の中から人体に有害な物質や微生物などを科学的に取除き、衛生的に安全にしています。その順序は、沈でん→ろ過→塩素滅菌です。

問　蛇口から出る水は、なぜ勢いがよいのですか？

答　高い所（秋葉山）に配水池（高区は標高五十四メートル、低区は標高四十四メートル）を作って、落差を利用しているからです。配水管の末端では、一平方センチメートル当たり二キログラムの圧力を維持しています。これは、二十メートルの高さまで水が上がる強さです。

問　いつでもかわりなく水が出るのはどうしてですか？

答　各家庭や事業所、工場の水需要にあわせて、計画的に水源から蛇口までの施設やパイプを一貫して整備しているからです。その計画は、もっとも水を使うときを基本にしています。このように水道は、衛生的で安全な水を、どこへでも常に一定の水圧で、しかも必要な量を必要なところへ十分に送ることができるように、料金によって運営されています。

問　使用水量はどのくらいですか？

答　昭和五十二年度の全市の総使用水量は、六百二十万八百二十六立方メートルでした。これは、秋葉山にあるPCタンク千五百五十杯分にあたります。

また、市民一人当たりの一日の使用水量は二百七十六リットルで、十八リットル入りのバケツですと、十五・三杯分になります。（この水量は学校、工場、病院などすべてを含めたものです。）五十一年度は十四・七杯分でしたから、少しずつ増えていることになります。

なお、五十二年度に使用水量の多かった事業所などのベストテンは次のとおりです。日揮化学㈱、新津車両管理所、県枝肉公社、新津高校、新津工業高校、新潟鉄道学園、新津精神病院、白露食品、第二小学校、下越病院（一個のメーターに示された水量により）

お買物、ご用命は市内で

電化製品のことなら
おまかせください
ナショナルショップ　完全アフターサービス
井浦電気
新津市本町2丁目　TEL（代表）4 4141

表具
鈴木一心堂
新潟県知事 鈴木正義　本町3☎2-2035